令和５年度

学校安全総合支援事業
～裾野市～

裾野市教育委員会

内容

１　事業の目標、概要の確認

（１）事業目標
（２）事業概要
（３）第１回学校安全推進委員会における委員意見より

２　今年度の取り組みについて

（１）今年度の取り組み内容
（２）成果と課題

1　事業の目標、概要の確認

（1）事業目標

モデル地区の学校を含めた地域全体で防災意識の強化、向上をめざす。

※背景

○富士山ハザードマップが17年ぶりに改定
○裾野市では、「富士山火山防災マップ」を作成

須山地区（十里木）が、噴火口そのものになる可能性が明らかになる

富士山火山噴火に焦点化した防災への取り組みが急務

1　事業の目標、概要の確認

（２）事業概要

防災学習

学校と地域の連携

防災意識の強化・向上

幼・小・中連携

外部との連携

１　事業の目標、概要の確認

（３）第１回学校安全推進委員会（県主催）における委員意見より

・火山災害に対する教育については、参考事例が少なく、知見が不足している。

・児童生徒だけでなく、教職員の知識等も不足している。
→研修の実施や資料の作成等を丁寧に行うとよい。

・いつ発生するかわからないことから、常日頃から避難意識を備え持たなければならない。

・個々が自分事とした危機意識を高め、「自分の命は、自分で守る」ための実践力を高めることも重要。

２　今年度の取り組みについて

（１）今年度の取り組み内容

①幼・小・中合同引き渡し訓練　②第１回実践委員会　③地域防災連絡会議

④研修視察　⑤防災研究会　⑥防災学習（小・中）　⑦防災講演会

⑧富士山火山避難訓練　⑨第２回実践委員会

（２）成果と課題

２（１）今年度の取り組み内容

①幼・小・中合同引き渡し訓練

幼・小・中連携　　学校と地域の連携　　外部との連携

☆初めて富士山噴火を想定（警戒レベル３）した訓練を実施。
- 須山小、中において、児童生徒を保護者に引き渡す流れを確認。
- 須山幼稚園児は、須山小に移動して引き渡しを実施。

☆引き渡し訓練終了後に、幼小中教職員による振り返りと、研修会を実施。

（R5.5.5静岡新聞朝刊）

噴火備え引き渡し訓練

裾野・須山地区　小中学校など合同

裾野市は２日、自然災害時に園児と小中学生を保護者に引き渡す合同訓練を須山地区で実施した。昨年度まで大地震の発生を想定していたが、３月に県などが公表した富士山火山避難基本計画を踏まえ、富士山の噴火に備えて地域との連携対応を確認した。

同報無線とメールを使い、入山を規制する「富士山噴火警戒レベル3が発表された」と通知した。基本計画は「レベル3に引き上げられた段階で避難対象エリア内の学校、保育施設などは休校や保護者への子供の引き渡しを行う」としている。須山幼稚園の園児19人、須山小の児童91人、須山中の生徒45人は急いで身支度を整え、連絡を受けて迎えにきた保護者と一緒に次々と帰宅した。

地震では屋外に避難するが、噴火は子供たちの不安を減らすため、各学級での待機を前提にした。須山小の三柴美智子校長は「保護者が大型連休中の家庭もあり、きょうは迎えに来てもらいやすかったが、職場から駆けつけると、もっと時間がかかる場合がある。さまざまな想定で対応を検討したい」と話した。

須山地区は市内で最も標高の高い富士山麓に位置する。富士山が噴火した場合、溶岩流は短時間で到達する可能性があり、市は避難対策を強化している。

（東部総局・杉山誠）

避難訓練で保護者と一緒に帰宅する児童＝裾野市の須山小

２（１）今年度の取り組み内容

①幼・小・中合同引き渡し訓練

幼・小・中連携

学校と地域の連携

外部との連携

地震の想定と今回の想定によって、
とるべき行動の違いは何か？
（準備の内容、導線、初期対応など）

保護者が迎えに来られない場合もある。
その時は、どうしたらいいのか？

日頃の備えは、何をしたらいいのか？
地震との違いは？

市役所への報告は？その内容は？

２（１）今年度の取り組み内容

②第１回実践委員会（R5.7.21）

幼・小・中連携　　学校と地域の連携　　外部との連携

○内容
・事業の方向性や実施内容の説明、確認
・講義「危機管理体制の課題と防災教育の推進」
　講師：村上　佳司　教授（桃山学院教育大学）

○参加者
・実践委員会委員
・県教委危機管理課
・市危機管理課
・外部協力者（トヨタ自動車未来創生センター）
・市内教職員聴講希望者
・市教委職員

○防災教育
・自分事としてとらえられるか
・知識学習から意識の変革
　→行動変容につなげる
・イベント的ではなく日常的に
・教職員自身の防災意識

○フェイズ・フリーの考え方

２（１）今年度の取り組み内容

③地域防災連絡会議

幼・小・中連携

学校と地域の連携

外部との連携

☆須山小中学校区単位で開催。

☆幼・小・中の防災計画の共有を通して、地区全体の防災体制を確認。

☆富士山噴火の防災体制について、危機管理調整監が説明。

☆中学校で行われる防災学習への協力を依頼。

２（１）今年度の取り組み内容

④視察研修（長崎県島原市）

学校と地域の連携

外部との連携

☆島原市教育委員会全面協力のもと、雲仙普賢岳噴火の被災地である島原市を視察。

☆内容

・現地関係者との懇談
　※参加者：被災地区現小中学校長
　　現自主防災会長
　　市民安全課長・班長
　　市学校教育課指導主事

・被災地に今も残る遺構や、記念館、学習施設の視察

２（１）今年度の取り組み内容

④視察研修（長崎県島原市）

☆現地関係者との懇談

○主な内容

【課題】風化、意識の薄れ、災害を知らない世代の増加

↓

・防災教育を通したふるさと学習を実施。普賢岳を、怖いものだけではなく、自然の恵みとして感謝する存在ととらえられるように配慮。

・訓練に加えて、災害発生時に適切な行動をとれるように、日頃の指導を意識。

・避難計画は、地域を含めた関係各所と共有。できるだけシンプルなものに。

・地域の防災体制の見直し。

・地域内のつながりの構築を意識。

２（１）今年度の取り組み内容

④視察研修（長崎県島原市）

☆遺構や記念館、学習施設の視察

○雲仙岳災害記念館

○旧大野木場小学校被災校舎

○「定点」

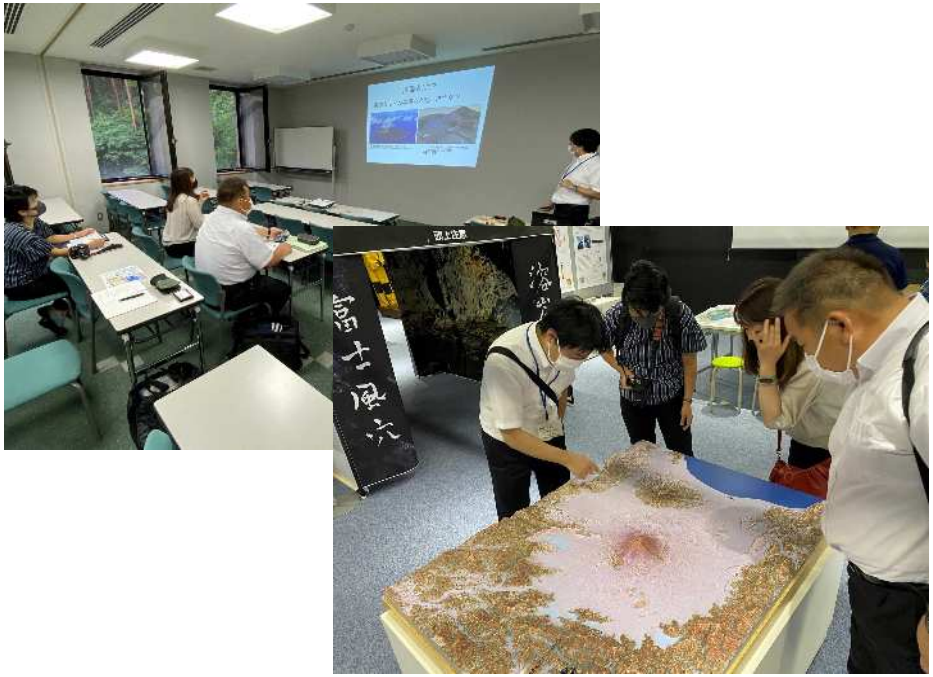
○土石流被災家屋保存公園

２（１）今年度の取り組み内容

⑤防災研究会（山梨県富士山科学研究所）

防災学習

外部との
連携



☆主な内容

〇研究所所員による講義

・情報の理解には知識が必要。発信する側と受け取る側の知識の一致がカギ。

・訓練の取り組みを通して、子供と保護者が話し合う機会を作る。

・防災に関する授業を保護者に参観してもらい、知ってもらうとよい。

〇研究所施設の見学

２（１）今年度の取り組み内容

⑥防災学習（小学校）「防災リーダーになろう」

防災学習

外部との
連携

☆対象：須山小学校６年生

☆目的
・学習を通して正しい知識を獲得するとともに、それをもとに自分の命はもちろん、周りの人のことも考えて行動できる力を育む。

☆概要
・総合的な学習の時間の単元に位置付け、市危機管理課、トヨタ自動車未来創生センターと連携して授業を実施。

・「備え」と「安全に避難」に焦点を当てる。

２（１）今年度の取り組み内容

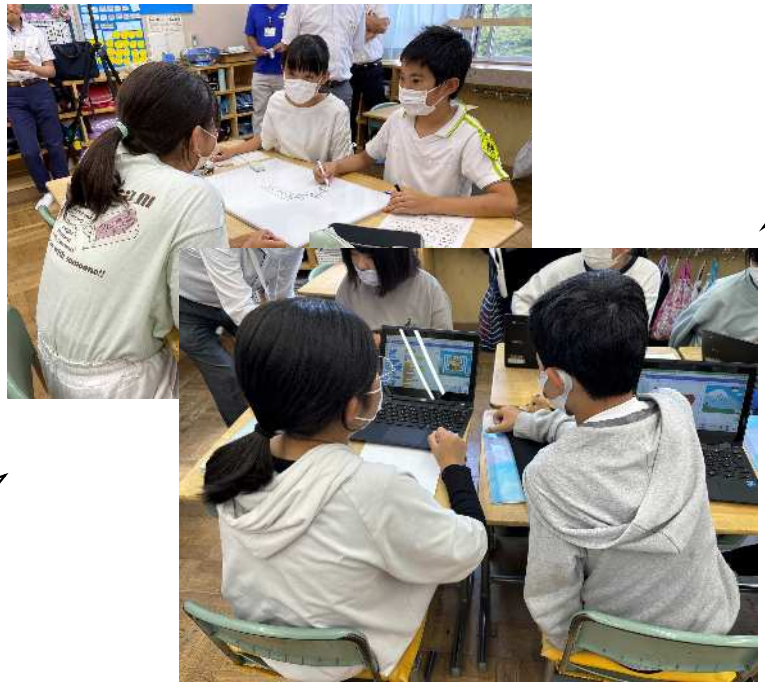
⑥防災学習（小学校）「防災リーダーになろう」

「防災リーダーとして、どんなことをしていきたい？」（学習終了後のアンケートより）

避難所に行くときの道をしっかり覚えて家族などに教えていきたい。

日頃から大切な物や、避難時に持って行くものをきめておくことをしたいです。

家族に噴火について分かったことを言って広めたい。



ここで習った知識で自分の命を守ったり、家族の助けになるようにしていきたい。

自分より下の子たちの危険になった時に助ける。避難用具を揃える。避難しないといけない時に、焦らず、冷静に、行動する。避難先を教える。

２（１）今年度の取り組み内容

⑥防災学習（中学校）「地区の避難計画を考える」

防災学習　学校と地域の連携　外部との連携

☆対象：須山中学校１～３年生

☆目的
・地区の自主防災会長と防災計画について話し合うことを通して、防災を自分事として考え、意識の向上と将来の地域防災を担う力の育成をめざす。

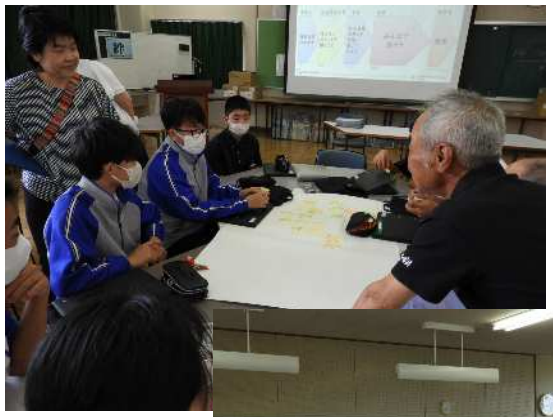
☆概要
・市危機管理課、トヨタ自動車未来創生センターと連携して授業を実施。
・夏季休業中に地域を知る事前学習を実施。
・地区避難計画の課題について話し合う。

２（１）今年度の取り組み内容

⑥防災学習（中学校）「地区の避難計画を考える」

「防災学習を行った感想」（学習終了後のアンケートより）

あまり防災訓練に参加してないから、これからはしっかりと参加できるときは参加したい。（中１）



改めて富士山の危険さや避難など、理解することができた。これをやってもし起きたときに活かせるようにできてよかった。（中２）

今まで富士山の噴火などのキーワードを聞くと、噴火が怖いなと思ったり、どういうふうに避難をしたらいいんだろうと思っていたけど、今日の話を聞いたりして、中学生でもいろんな人の役に立つことができるんだなと思った。（中３）

今まで災害のときは逃げるくらいしか考えてなかったから、地域の人を助けるなど色々な意見が聞くことができて良かったと思う。（中３）

２（１）今年度の取り組み内容

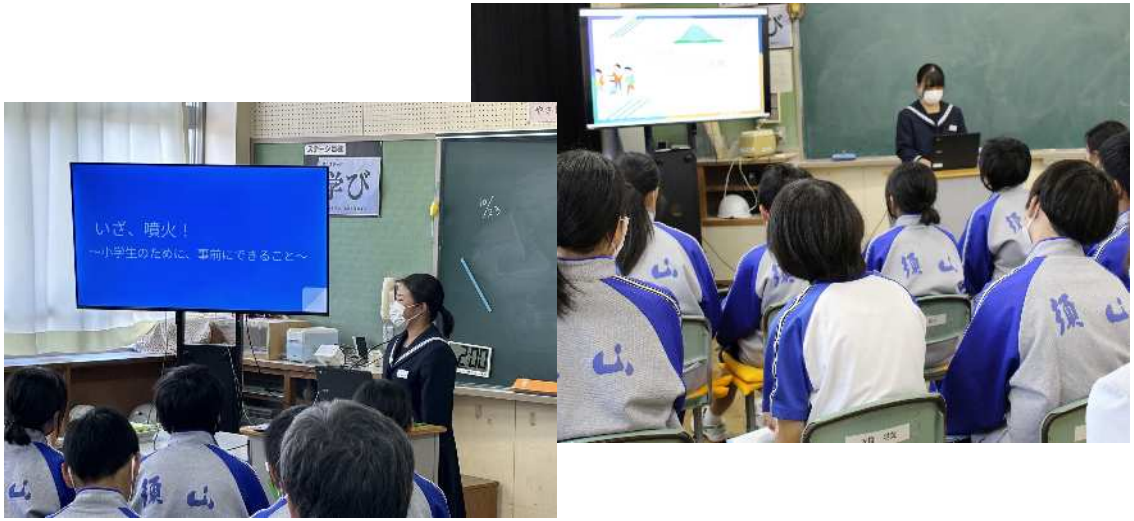
⑥防災学習（中学校）を生かして

防災学習

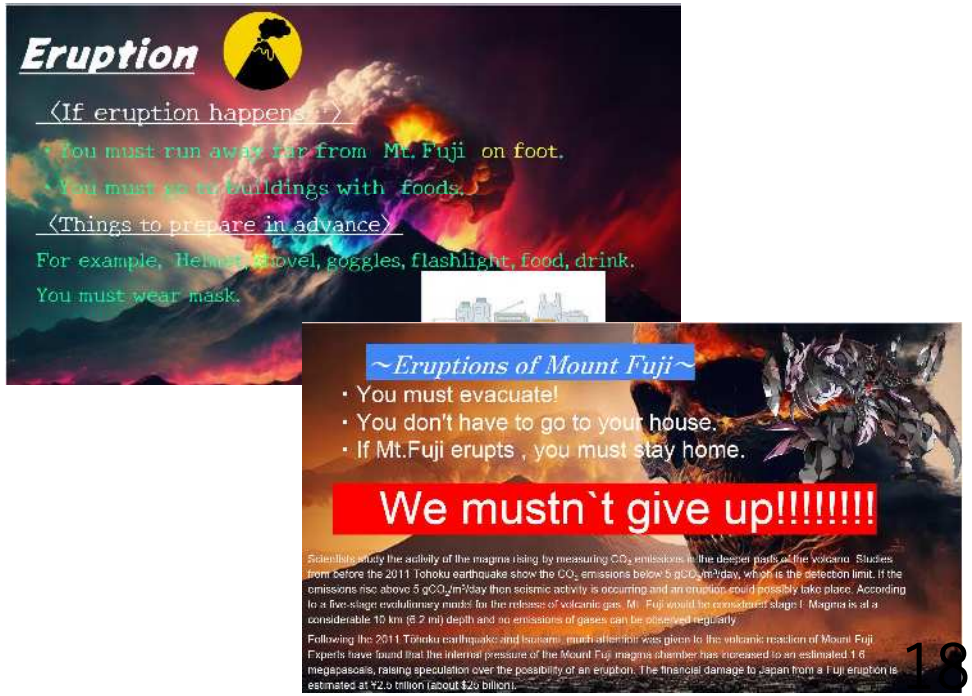
学校と地域の連携

外部との連携

○ワークショップデイでの発表（中３）



○英語の学習で防災ポスター作成（中２）



２（１）今年度の取り組み内容

⑦防災講演会

防災学習

学校と地域の連携

外部との連携

講　師：桃山学院教育大学　村上佳司　教授

演　題：富士山との共存を目指して　～「助けてもらう」から「助けられる」へ～

参加者：須山小６年生、須山中１～３年生
須山小中教職員
須山地区各区区長、自主防災会長
須山小中学校学校運営協議会関係者
保護者、須山地区住民の希望者

２（１）今年度の取り組み内容

⑦防災講演会

防災学習

学校と地域の連携

外部との連携

正しい知識
日頃からの準備
落ち着いて判断
→ 自分や周りの命を守る

普段の生活でやっていることが、いざというときに役に立つ。
（フェイズ・フリーの考え方）

噴火は突発的に発生するものではないと聞き、安心した。

日頃からの意識があれば自分だけでなく他人の命も救うことができるとわかった。

誰かに助けてもらうという意識が自分が助けなければというものに変わった。

２（１）今年度の取り組み内容

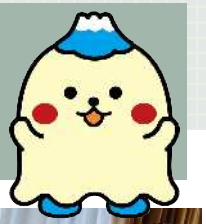
⑧富士山火山避難訓練

学校と地域の連携　　外部との連携

☆訓練の概要
- 午前８時噴火警戒レベル３発表に伴い、十里木高原地域の第１次避難対象エリアに避難指示。第２次避難対象エリアに高齢者等避難を発令。
- 午前９時５分噴火警戒レベル４発表に伴い、須山地区全域に避難指示発令を想定。
- 須山１～３、６区各集会所において安否確認を含む共助活動を行う。
- 避難場所となる市南東地域にある東中、深良中まで、住民を避難させる。

☆事業に関すること
- 各地区の集会所に、本事業の内容をまとめたポスターを掲示。（トヨタ自動車未来創生センター作成。）
- 終了式にて、裾野市教育委員会担当者が須山地区住民に事業内容を説明。

２（１）今年度の取り組み内容



⑧富士山火山避難訓練

２（１）今年度の取り組み内容

⑧富士山火山避難訓練

○生徒発案により配付した安否確認（自分で避難できる、または避難した）用タオル

○避難先での終了式

２（１）今年度の取り組み内容

⑨第２回実践委員会（R5.12.22）

幼・小・中連携　　学校と地域の連携　　外部との連携

○内容
・今年度の事業報告とふりかえり

○参加者
・実践委員会委員
・県教委危機管理課
・市危機管理課
・外部協力者（トヨタ自動車未来創生センター）
・市内教職員聴講希望者
・市教委職員

○主体性と継続性がカギ
　→防災教育のイベント型から体験型・
　　対話型への転換
　→外部との連携
○地域とのかかわり（広がりを持たせる）
○教職員の意識をどう高めるか
　→専門家による指導・助言

２（２）成果と課題

①取り組みを通して見えてきたポイント

○正しい知識を身に付ける

○自分事として考える

○普段の生活でやっていることを防災に生かす

２（２）成果と課題

②成果

○様々な場や方法で取り組みを進めることにより、富士山火山噴火に対する関心が高まった。

○学校が地域、外部、教育委員会と連携し、一体となって防災学習を進めることで、児童生徒の防災に対する意識が変化し、人任せではなく自分ごととして考えようとする姿勢が見られた。

○防災学習に関わることが教職員、行政・地域関係者らの学習の場になり、今まで知らなかった火山噴火や防災に関する知見を獲得するとともに、防災に対する意識の向上につながった。

２（２）成果と課題

③課題

○保護者・地域を含めた全体的な防災意識の向上と維持、継続

○各校の防災の備えへの反映

○教職員一人一人の危機管理意識の向上

④今後の見通し

○継続的な防災学習の実施

○今年度の取り組みを市内各校に広げること

○地域や外部機関との連携

ご清聴ありがとうございました。